



間もなく6月、肥料価格の変動期を向かえ お忙しいことと思います。

# 昭和肥料ニュース FAX版

5月11日に日本の本州でもオーロラが観測され話題となっています。1957～58年以来の出来事で、これほど低緯度での観測は史上初の地点も多く、異常気象の前触れではないか？と心配になり調べてみました。

（補足：太陽活動が活発→太陽フレアが多発生→オーロラの低緯度観測 の因果関係がある）

太陽の活動は11年周期で強弱を繰り返しているようで、今周期では2025年がピークになると予想されています。昨年に引き続き、今年～来年は太陽のパワーは強まっていく傾向があるようです。この傾向を知り、高温・過日照への備えをしておきましょう。（なお、高温への備えについては、弊社HPにあるバックナンバー（2023年7～8月号）を見返してください）

もっとも、以下の①～③から太陽活動についてあまりに過敏になることは無さそうです。狼狽えることはありません。むしろ適切な肥培管理、適正な土づくりで備えれば、豊作を狙えるチャンスとなるはずです。光合成の主要因の「光」は豊富になる状況、後は「水（灌水の技術、根の活力維持）」「二酸化炭素（換気の技術）」を整え、増収に見合う栄養を適正に補給すれば豊作に向かうはずです。

- ①太陽活動自体はこれまでの「観測史上最高を更新するほどではない」こと
- ②1957年～1958年の水稻作況は108～109と豊作※だったこと  
※当時は今ほど気温が高くなかったので油断は禁物です。弊社資材を活用ください。
- ③太陽光自体の強さはほぼ同じであること（極大期と極小期の差が0.1%程度）

専門家によると心配なのはGPSや電子機器の故障・トラブルの発生らしく、スマート農業等に使われる精密機器に少しご注意くださいをオススメします。

（各機器メーカー様もおそらく対策されていると思いますので、一応本件の影響がないか、あった場合の回復方法をご確認してはいかがでしょうか）

また、一部の病害虫の発生についても紫外線や気温の増減に影響があるので、防除のタイミングなどは平年よりも少し早めにしたり、被覆資材を工夫したりするのも対策の一つになると思います。

**弊社は6月中旬頃から定期修繕期間に入ります。**

「機械トラブル回避」繋がりではありませんが弊社では6月恒例の定期修繕期間を設けます。そのため6月中旬～7月初旬の需要分は事前に生産・在庫しておき、ご迷惑がかからないように努めたいと思っております。

つきましては、貴社在庫、貴社顧客様の需要をご確認いただき、ご入用なら急ぎのオーダーをお願いいたします（6月の価格変更前に追加いかがですか？）



お問い合わせは

TEL 0766-67-2700 FAX 0766-68-1227  
HPアドレス <https://showa-f.co.jp>